



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年1月31日

上場会社名 セブン工業株式会社  
 コード番号 7896 URL <https://www.seven-gr.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 木下 浩一  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長 (氏名) 河合 剛 TEL 0574-28-7800  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

上場取引所 東 名

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の業績 (2022年4月1日～2022年12月31日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	13,545	17.2	320	△15.5	322	△18.5	218	△29.1
2022年3月期第3四半期	11,554	—	379	—	395	—	307	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	48.87	—
2022年3月期第3四半期	68.94	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	12,625	7,077	56.1
2022年3月期	11,984	6,948	58.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 7,077百万円 2022年3月期 6,948百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	7.00	—	10.00	17.00
2023年3月期	—	10.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の業績予想 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,470	2.8	360	△22.3	360	△24.8	250	△30.9	55.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	4,673,250株	2022年3月期	4,673,250株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	208,754株	2022年3月期	208,581株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	4,464,621株	2022年3月期3Q	4,464,785株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	4
第3四半期累計期間 .....	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	5
(継続企業の前提に関する注記) .....	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	5

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、ロシアのウクライナ侵攻による世界情勢の不安定感を背景にあらゆる資源価格の上昇や資源の調達にかかるリスク等が深刻化するなか、急激な円安の進行も重なり極めて不透明な経済環境下で推移いたしました。

当社が属する住宅業界におきましては、昨年から続く「ウッドショック」による世界的な木材供給不足は収まったものの、かつてない為替水準から海外資材の調達コストの高騰が進んでいることに加え、不透明な経済状況を背景に消費マインドの減退により、新設住宅着工戸数は持家を中心に減少が続く状況下で推移いたしました。

こうした厳しい状況下、顧客ニーズへの的確な対応を図ることで市場からの信頼性をより高める施策を講じ、継続的な受注確保に努めることを第一とし、両事業部門共に有する高いプレカット技術を活かした省施工商品の更なる拡充や非住宅物件に対する経営資源の投下等を通じて、当事業年度のスローガンである「Be Professional II」の体現を図ってまいりました。

内装建材事業においては、想定以上の為替の円安進行や電力費などエネルギー費用の高騰等、特殊な外部環境の影響を受け収益が圧迫されていることから、販売価格の適性化を進めると同時に国内外の生産拠点の再編、物流機能や使用する原材料の見直し等の検証を進め、生産性向上並びに収益性改善に努めました。また、顧客に対する安定供給や高品質の製品を提供するといったメーカーとしての原点を意識し、市場からの信頼を得るとともに非住宅分野への積極的な販売や階段部材を主とした省施工商品、デザイン性の追求拡充等付加価値の向上を進めてまいりました。こうした取り組みにより受注は堅調に推移し、収益は徐々に改善が図られているものの、外部環境の更なる悪化の影響を色濃く受けた結果となりました。

木構造建材事業においては、成長戦略の中核である非住宅分野の領域拡大に向けた施策及びプレカット、パネル、建装の三位一体の取り組みが奏功し、安定した受注及び収益確保に繋げることができました。特に当事業年度は大型非住宅物件を中心とした建装事業が拡大しており、難易度の高い木造建築物を手掛けている技術力を積極的にアピールし、更なる需要開拓に努めました。また、新商品であるサッシ付パネル(neo smart panel)の展開において、販売網の確立に向け、複数の協力企業との提携関係による拡販体制の構築を進めてまいりました。ウッドショックの時勢が落ち着きを見せ、調達リスク等にかかる舵取りの困難さから脱却できつつある一方、価格競争が進展しているなか、攻守のバランスを意識した慎重かつ迅速な事業運営に努め、堅調な業績を維持することができました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は、135億45百万円と前年同四半期と比較し19億90百万円(17.2%)の増収となりました。利益面では営業利益は3億20百万円と前年同四半期と比較し58百万円(△15.5%)の減益、経常利益は3億22百万円と前年同四半期と比較し73百万円(△18.5%)の減益、四半期純利益は2億18百万円と前年同四半期と比較し89百万円(△29.1%)の減益となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産につきましては、126億25百万円となり、前事業年度末と比べ6億40百万円(5.3%)の増加となりました。これは主に繰延税金資産(投資その他の資産「その他」を含む。)等の減少があったものの、棚卸資産及び売上債権等の増加によるものであります。

負債につきましては、55億47百万円となり、前事業年度末と比べ5億11百万円(10.2%)の増加となりました。これは主に未払法人税等及び賞与引当金等の減少があったものの、仕入債務、短期借入金及び長期借入金の増加によるものであります。

純資産につきましては、70億77百万円となり、前事業年度末と比べ1億29百万円(1.9%)の増加となりました。これは主に期末配当及び中間配当の実施があったものの、四半期純利益の計上によるものであります。

この結果、自己資本比率は前事業年度末と比べ1.9ポイント減少の56.1%となりました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期の業績予想につきましては、2022年4月28日に公表しました予想からは変更ありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	751	828
受取手形、売掛金及び契約資産	4,257	4,271
電子記録債権	978	1,099
商品及び製品	219	291
仕掛品	445	513
原材料及び貯蔵品	947	1,146
その他	134	209
貸倒引当金	△6	△7
流動資産合計	7,727	8,354
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	713	681
土地	2,768	2,882
その他（純額）	444	455
有形固定資産合計	3,926	4,018
無形固定資産	74	64
投資その他の資産		
前払年金費用	103	100
その他	152	86
投資その他の資産合計	256	186
固定資産合計	4,257	4,270
資産合計	11,984	12,625
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,632	1,712
電子記録債務	1,035	1,197
短期借入金	500	800
1年内返済予定の長期借入金	302	307
未払法人税等	177	15
賞与引当金	200	65
その他	474	592
流動負債合計	4,322	4,690
固定負債		
長期借入金	635	771
役員退職慰労引当金	39	47
資産除去債務	3	3
その他	34	34
固定負債合計	713	856
負債合計	5,035	5,547
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,473	2,473
資本剰余金	2,675	2,675
利益剰余金	2,043	2,172
自己株式	△244	△244
株主資本合計	6,948	7,076
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	0	0
評価・換算差額等合計	0	0
純資産合計	6,948	7,077
負債純資産合計	11,984	12,625

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	11,554	13,545
売上原価	9,628	11,620
売上総利益	1,926	1,924
販売費及び一般管理費	1,546	1,603
営業利益	379	320
営業外収益		
受取配当金	2	3
受取手数料	1	1
雇用調整助成金	14	—
スクラップ売却益	0	0
資材売却益	1	1
その他	1	2
営業外収益合計	21	9
営業外費用		
支払利息	3	5
その他	1	2
営業外費用合計	5	7
経常利益	395	322
特別利益		
固定資産売却益	0	0
子会社清算益	49	—
特別利益合計	49	0
特別損失		
固定資産廃棄売却損	0	0
保険解約損	1	—
特別損失合計	2	0
税引前四半期純利益	442	322
法人税、住民税及び事業税	96	45
法人税等調整額	37	58
法人税等合計	134	103
四半期純利益	307	218

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。